

古代アメリカ学会 第9回西日本部会研究懇談会のお知らせ
「若手研究者による学際的研究：アンデスとテオティワカンの事例から」

第9回西日本部会研究懇談会を以下の要領で開催します。ふるってご参加下さい。また非会員の方も参加できますので、関心をお持ちの方にはぜひお声をおかけ下さい。参加の事前登録は必要ありません。

〔研究懇談会概要〕

今回の研究懇談会は「若手研究者による学際的研究：アンデスとテオティワカンの事例から」と題し、博士論文提出を控えておられる二人の若い研究者に、アンデスとテオティワカンの事例を基に学際的研究成果をお話しいたします。様々な分野の視点から活発な意見交換をしていただきたく存じますので、初の試みとして、参加して下さる会員に事前に発表抄録を読んでいただけるようにする形式をとりたいと思います。

発表1 「アンデス古期におけるモニュメンタリティの生成と変容：ペルー北海岸の環境変動とマウンド・ビルディングの変化」

【発表者】 荘司一步（総合研究大学院大学）

【コメンテーター】 阿子島 功（元 山形大学）

【概要】

南アメリカ大陸のアンデス海岸地域では、先土器時代にあたる紀元前3000年ころから「神殿」と呼ばれる巨大なモニュメントが建設されてきた。本発表では、それよりもさらに古い時代において沿岸部で建設されてきた貝塚状のマウンド（盛り土遺構）を対象とし、遺跡形成論とそこに埋め込まれた考古遺物（石器、自然遺物、埋葬人骨など）の分析から、自然環境、生業活動、建設活動の変化について明らかにする。とくに、海生貝類を対象とした動物考古学や貝殻成長線解析などの生物学・地球化学・考古学の学際的な視点から、ENSOの頻度が増加するという環境変動と生態資源分布の変化、マウンド・ビルディングの季節性を検証していく。これを通じて、環境変動に伴う集団関係の変化と様々な社会実践の変化、およびモニュメンタリティの生成過程を現象学的に考察することが本研究の主題となる。

発表2 「テオティワカンにおける黒曜石の象徴性と色の『選好』」

【発表者】 千葉裕太（愛知県立大学）

【コメンテーター】 岩崎 賢（南山大学）

【概要】

複雑な多民族国家テオティワカンの様々な例外を含めた統合的分析のため、本発表では、

柔軟な選択傾向を示す「選好」という言葉を用い、黒曜石について事例を考察する。

先行研究ではこれまで、古典期テオティワカン社会では緑色黒曜石が政治的・経済的・象徴的に重要な意味を持つと言及されてきた。しかし、「月のピラミッド」内の墓より発見された黒曜石製品 2061 点の型式分類、統計分析からは、古典期初期の奉納儀礼では、赤色の斑点を持つメカの黒曜石が人為的に特定の場所に配置されており、赤色の象徴論的選好が示唆された。一方、紀元 300～350 年頃、緑色黒曜石製のミニチュア製品が大幅に増加する。組成の均質な緑色黒曜石製石刃に二次加工を施し象徴的な形に作り変えたものであった。ここには、機能主義的な素材適正に基づく選好が示唆される。本論文では黒曜石の選好が、赤色のメカから緑色へ時代とともに変化したことを指摘し、その原因を考察する。

〔日時〕 2020 年 2 月 1 日 (土) 13:30-17:45

- ・開会あいさつ
- ・発表 1 : 13:30-15:30 (発表時間 1 時間+コメントおよび質疑応答 1 時間)
- ・小休憩 (15 分)
- ・発表 2 : 15:45-17:45 (発表時間 1 時間+コメントおよび質疑応答 1 時間)

〔会場〕：京都外国語大学 5 号館 2 階 524 教室

京都外国語大学アクセスマップ <http://www.kufs.ac.jp/access/index.html>

京都外国語大学学内マップ <http://www.kufs.ac.jp/universitylife/facilities.html>

阪急京都線ご利用の場合は、「西院」駅から西へ徒歩 15 分。西大路四条通りに面する正門からお入りいただき、当日学内に設置されております「古代アメリカ学会第 8 回西日本部会研究懇談会」の立て看板を目印に 5 号館までお越しください。

地下鉄東西線ご利用の場合は、「太秦天神川」駅から天神川通りを南へ徒歩約 10 分。天神川通り左手に 5 号館が見えてまいりますのでエレベーターで 2 階へお越しください。

〔主催〕：古代アメリカ学会

〔連絡先〕：西日本部会幹事・大越 翼 (t_okoshi@kufs.ac.jp)

古代アメリカ学会事務局 (jssaa@sa.rwx.jp)

(ご利用の際には、*を@に変えてください。)